

事業コード	H16-建-継-14			区分	国庫補助・県単独
事業名	地方道路交付金事業			部局名	建設交通部
事業種別	道路改築事業(バイパス)			課室班名	道路建設課 (tel) 2486
路線名等	(一)日三市角館線			担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	角館町 鶴ノ崎橋			担当者名	主幹(兼)班長 小田 修
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	4	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備	
	目標コード	2	施策目標名	県道改良率	

1. 事業の概要

事業期間	H14~ H19(6年)	総事業費	15億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長L=1,480m 幅員 1期工区W=13.5(2.5-1.25-6.0-1.25-2.5) 2期工区W= 8.5(1.25-6.0-1.25)					
事業の立案に至る背景	当路線は、角館山谷地区と角館町中心部を結ぶ幹線道路であり、また市街地の渋滞解消を目的に整備が進められている角館バイパス(国道46号)と一体となって、田沢湖町及び西木村からの角館町へのアクセス道路としても位置づけられている。 しかし当該区間は通学路に指定されているにもかかわらず、狭隘で直角カーブとなっており、また昭和47年に架設された鶴ノ崎橋が設計荷重14tで大型車の通行に危険な状態となっている。 そのため地域住民の安全対策と、老朽橋架替を早急に図るべく、当該区間を整備するものである。					
事業目的	通学路における歩道未整備箇所の解消(安全な生活環境の確保) 大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域作りの支援) 角館バイパスから角館町へのアクセス道路 架替えの必要のある老朽橋(昭和47年12月架設 TL-14t)					
事業費内訳 事業内容	(単位:千円)					
		全体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降
事業費内訳	事業費	1,512,000	369,000	165,000	110,000	868,000
	工事費	1,060,000	141,015	75,575	5,000	838,410
	用補費	280,009	129,009	73,000	78,000	0
	その他	171,991	98,976	16,425	27,000	29,590
	財源内訳					
事業内容	国庫補助	831,600	202,950	90,750	60,500	477,400
	県債	645,000	157,000	70,000	47,000	371,000
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	35,400	9,050	4,250	2,500	19,600
事業内容		改良工 橋梁工 用地補償	改良工 橋梁工 用地補償	改良工 用地補償	改良工 橋梁工 舗装工	
事業推進上の課題	特になし					
上位計画での位置付け	総合計画における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業					
関連プロジェクト等	田沢湖・角館・西木合併協議会(法定合併協議会H15.4.1設置) 地域高規格道路盛岡秋田道路(国道46号角館バイパス)					
事業を取り巻く情勢の変化	田沢湖・角館・西木合併協議会が発足し、「合併重点支援地域」にも指定されている。					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	路線改良率			データ等の出典	道路現況調書 平成16年 7月
	指標の種類	成果指標 (業績指標)				
	指標式	改良率(改良済延長/路線実延長)				
	目標値a	67.5%(秋田県)				
	実績値b	42.7%(日三市角館線)				
	達成率b/a	63.2%				
把握の時期	平成16年 7月					

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	通学路指定路線であり、他に競合する路線は存在しない。 道路構造が車道幅員5.0m、最小半径30mとなっており、安全な交通確保のため早急に整備する必要がある。 地域高規格道路角館バイパスのアクセス道路としての機能があり、必要性が高い。	10 点
緊 急 性	地域高規格道路角館バイパスが平成19年に一部供用するため、アクセス道路としての当該区間も供用年次の整合を図り、整備していく必要がある。	15 点
有 効 性	安全な生活環境の確保 地域づくりの支援 角館バイパスのアクセス道路としての活用があり、地域連携上重要路線である。	30 点
効 率 性	事業の費用便益比は2.29であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 9.1億円 ・総便益の現在価値 20.8億円	20 点
熟 度	用地買収が70%ほど終了しており、平成17年度には全て完了する予定である。 地域高規格道路角館バイパスも、平成19年度一部供用に向けて、順調に進捗している。	13 点
判 定	ランク (○) 「緊急性」「有効性」「効率性」とも高い点数であり、整備後の有効性が高いことから、引き続き事業を実施すべきである。	88 点
総合評価	<p>継続 改善して継続 見直し 中止</p> <p>事業継続は妥当である。</p>	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

別表7 (21)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 継続箇所

事業コード (H16-建-継-14) 箇所名 (角館町 鵜ノ崎橋)

適用事業名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	3箇所以上	8	8	
		2箇所	2箇所	6		
		1箇所	1箇所	4		
		0箇所以上	0箇所以上	0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	5件該当	7	2	
		4件該当	4件該当	6		
		3件該当	3件該当	5		
		2件該当	2件該当	4		
1件該当		1件該当	2			
該当項目なし		該当項目なし	0			
計			15	10		
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	あり	4	4	角館バイパス
		なし	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	位置づけなし	0		
	交通量	増加している	増加している	3	3	
		増加していない	増加していない	0		
	特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	あり	5	5	老朽橋
なし		なし	0			
計			15	15		
有効性	道路の位置づけ					
	生活圏30分形成道路等	該当する	該当する	7	7	
		該当しない	該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	該当する	7	7	
		該当しない	該当しない	0		
	地域防災計画画重要な道路	該当する	該当する	7	7	
		該当しない	該当しない	0		
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	必要性が高い	9	9	
		低下傾向	低下傾向	6		
		必要性が低い	必要性が低い	3		
計			30	30		
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.0以上	1.0以上	5	5	B/C=2.29
		0.5以上~1.0未満	0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	300台/日未満	0		
	コスト縮減	あり	あり	5	5	
		なし	なし	0		
事業中止による影響	既投資額の損失大	既投資額の損失大	5	5	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20		
塾度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	8割以上完了	10	5	
		5割以上完了	5割以上完了	8		
		1割以上完了	1割以上完了	5		
		1割未満	1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	8割以上完了	10	8	
		5割以上完了	5割以上完了	8		
		1割以上完了	1割以上完了	5		
		1割未満	1割未満	2		
		未着手	未着手	0		
計			20	13		
合計			100	88		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	88	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		